

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670700493
法人名	公益社団法人 大島郡医師会
事業所名	グループホーム 虹の丘
所在地	鹿児島県奄美市名瀬知名瀬2229番地 (電話) 0997-54-8823
自己評価作成日	令和4年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

{職員研修}
・同法人内の老健施設との連携により、職員研修が充実している。
{入居者、体調管理}
・自然に囲まれた環境で、入居者が穏やかに個々のペースで生活されている。
・毎日のバイタル測定による体調管理ができており、法人が医療機関であるため、急変時にも対応が素早くできる。
{地域との関係、行政との連携}
・行政職員、家族代表、地域代表と2か月に1回、運営推進会議を開催し必要に応じて助言をいただいている。
・毎月の地域清掃活動に参加したり、グループホームの防災訓練等に、地域の方にもご協力いただき連携が取れている。また、地域の避難訓練にも参加しており、災害や非常時の応援体制も日頃から連携が取れている。
{家族との関係}
・家族へは月1回以上は病状やADL報告の連絡を入れ、入居者、家族が共に安心していただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、敷地も広く利用所が伸び伸びと生活できる環境の中にある。
・母体法人は医療機関であり、近くに老人保健施設があり、勉強会や研修等を合同で行い、職員の資質向上や協力体制が充実している。
・緊急時の医療体制は、老人保健施設と医療連携ができていて、利用者や職員の安心に繋がっている。
・地域の行事についても、防災訓練や清掃作業等へ参加し、良い関係が保たれている。
・同法人内で職員の異動等があるが職員間の関係も良く、管理者は、職員の相談に耳を傾け、個人的な相談にも時間を作って応じている。職員は、コロナ禍で外出や家族との面会等が思うようにできていない中、利用者一人一人に関わる時間を大切にしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	4項目の事業所理念を事務室内に掲示している。各々で確認し理念の共有や実践に心がけている。	理念は事務所内、玄関、ホール等に掲示し、パンフレットにも掲載している。日常の業務の中や職員会議等で振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域の方々と交流を行えない状況がある。地域清掃活動は職員が参加している。	自治会へ加入している。地域の清掃活動等の話し合いに参加し第3日曜日に清掃作業へ職員のみ参加し地域の方々と交流の機会としている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍のため、これまで取り組んでいた認知症カフェ等が開催できず、地域の方々と交流を行えていない。地域交流が図れないこともあり事業所が地域から孤立しているようにも感じる。今後の社会事情を踏まえ地域交流が持てるよう努めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政から示された地域密着型サービス運営推進会議の臨時的な取扱いに基づき、会議は文書による情報提供・報告を行なっている。必要に応じ、電話やメールにて助言をいただいている。	2ヶ月に1回、文書による職員のための会議を実施し他の委員へは情報提供や報告をしている。市へはメールにて報告し他の関係機関は持参したり送付したりしている。電話やメールでのアドバイスを貰ってサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年度は4月に管理者変更があったが、11月の実施指導や12月の事業所指定更新手続きなどで行政と細かなやり取りができ、行政からの指導や、事業所からの相談、報告などで協力関係を築き、助言や協力を得ている。	管理者変更の手続きにおけるアドバイスを貰ったり、実地指導を受けている。介護保険の申請など窓口に出向いた時、必要に応じて相談しアドバイスを貰う等、連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員はマニュアルや、法人学習会にて身体拘束について学んでいる。 日中は玄関や居室は施錠しない取り組みを行い、散歩等希望される場合は同行したり声かけを行っている。	マニュアルを基に法人の委員会や勉強会で身体拘束廃止について事例を挙げて研鑽している。職員の言葉遣いは管理者が直接注意している。玄関の昼間の施錠はしていない。外出希望者には近隣の散歩を一緒にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人学習会にて学んだり、毎日の自己チェック表を用いた言動の振り返りを行い、気を付けるよう取り組んでいる。 また、職員間で言動について注意し合えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人学習会にて高齢者の権利擁護について学習している。 成年後見制度については法人学習会や市民向け講座に参加し学習している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前に本人や家族等に、内容説明及び不安や疑問点をお尋ねし、ご理解いただけるよう取り組んでいる。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者のご意見は積極的に取り入れるようにしている。ご家族とは通院時の病状報告や電話連絡時、来所された時などに意見交換をし、意見や要望は共有ノート等にて職員間での共有を図っている。</p>	<p>利用者からは毎日の暮らしの中で聞き取りを行い、表情やしぐさで判断したりしている。家族からは医療機関受診報告の時などに意見を聞き、共有シートに記録して取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は職員個々の考え、思いを聞き、反映できるよう努めている。共有ノートや日々の会話からも提案を募り、業務改善に努めている。</p>	<p>管理者は職員が提案や相談などで話しやすい環境づくりに力をいれている。業務のことや個別的な相談もある。共有ノートへの記録をもとに話し合いを行っている。業務の中でその都度職員から要望等を聞いている。ケアについての意見等が多い。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員個々の考えを聞き、状況を把握し、業務改善や働きやすい職場環境づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内学習会は参加出来ているが、外部研修の参加は出来ていない。</p> <p>新人職員の法人内研修は整備できている。</p> <p>法人として実務年数や有資格に応じた職位や職責を定めたキャリアパス制度を導入検討中である。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍のため、地域の同業者と交流する機会が得られていない。</p> <p>オンラインでの研修での同業者との意見交換等の一部行えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族等から、本人の生活リズム、気を付けていること、気になることなどの情報収集をしている。 入居後は普段から会話をもち、不安や困りごとをお聞きし、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍において、初期段階では介護支援専門員が窓口となり、家族の不安や困りごと、要望等を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等、入居前に利用していた事業所や介護支援専門員からの情報、また、かかりつけ医から病状やADLについての情報を確認し、支援の見極めをし、サービス提供に繋がられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身の洗濯物たたみや、施設内に掲示する飾り物等の作成などをしていただき、役割をもちながらお互いに協力し合うことで関係構築を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	パーティション越しの面会、必要物品持参の来所時や月1回以上の電話報告で日々の生活の様子や病状等をお伝えし、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、馴染みの人との交流や、馴染みの場所への外出が行えない状況がある。 電話や写真、映像などを用いて関係の記憶が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍で、思うような外出が出来ていない。定期の受診時にドライブして季節を感じてもらったり近隣を散歩したりしている。2ヶ月に1回音楽療法のボランティアや美容師の3ヶ月に1回の訪問を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がトラブルにならないよう、座席配置を配慮したり、一人ひとりが孤立しないよう職員が他者との仲介に入ったりしながら、交流の持てる雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、それからの生活の相談・助言をしている。 また必要に応じて本人・家族の経過をフォロー・相談できる態勢を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や行動から、本人の思いや希望を探り、意向の把握に努めている。必要に応じ家族報告・相談も行っている。	利用者がホールでゆっくりくつろいでいる時や風呂場・夜間眠れない時などに話をして意向を聞いている。把握が困難な利用者については、行動の観察や動き、家族からの情報を聞いたり、生活歴等で思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等からの意向の確認や情報収集にて、生活歴や生活リズムの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や職員間での情報共有を行い、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族等、かかりつけ医や職員から意見を聞き、モニタリング、再アセスメントを経て、本人の現状に合った介護計画が作成できるよう努めている。	本人・家族から意向や要望を聞き、主治医の意見を参考に担当職員からケアについて意見を聞き介護計画を作成している。担当者会議を行い、ケアプランは家族と話し合っている。モニタリングは3ヶ月毎、見直しは6ヶ月毎に、更新時・変更時等にも実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容、気づきをカルテ記録し、職員間で情報共有している。共有した情報を介護計画見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診時の送迎介助による家族負担の軽減を図り、状況に応じた相談やサービス提供にて、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域の方々と交流を行えない状況がある。地域清掃活動は職員が参加し、非常災害時は地域消防団と連携し対応できるよう避難訓練実施や、連絡・相談できる関係を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族等の希望を聞き、かかりつけ医の選定を行っている。かかりつけ医とは定期受診や電話相談にて事業所との関係を築き、適切な医療を受けられる体制づくりに努めている。	入所時に本人や家族へ確認をしている。在宅時の主治医や母体の主治医がいる。定期受診や他科受診時は職員が同行している。歯科は訪問診療がある。受診の結果については、家族へ報告をしている。緊急時は老人保健施設の看護師へ電話をし指示により緊急搬送する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の日々の状態を、日勤業務終了時に法人看護師長に報告・相談し、必要に応じ指示を仰いでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は治療方針や現状について、かかりつけ医や病院関係者と情報交換・相談を行っている。</p> <p>退院時には時期やどの退院先が適切であるか等、かかりつけ医や病院関係者と情報交換・相談を行っている。</p> <p>普段の定期受診にて、かかりつけ医と速やかな連携が図れるよう関係づくりに取り組んでいる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、重度化についての当事業所の方針の説明を行い、同意を得ている。</p> <p>終末期に向けての支援は、事業所として、看護師不在の現況で支援できる体制づくりを検討しているところである。</p>	<p>入所時に事業所でできる事・できない事等を説明し、同意を得ている。食事を摂れなくなり重度化になる前に早めの段階的な共有と同意を貰って対応している。症状により主治医より家族へ説明し、医療機関へ搬送するケースが多い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人学習会にて心肺蘇生法やAED使用方法などを学び、事故発生時は看護職員に指示を仰いだり必要な措置を講じている。また緊急時は救急隊への依頼や家族連絡等、各職員単位で対応できる体制を整えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルや定期的な避難訓練の実施にて災害時の対応と知識習得に努めている。地域の防災避難訓練にも参加し協力体制が得やすい関係を築いている。</p>	<p>マニュアルを基に年2回避難訓練を実施。1回は消防署の立ち合いがある。業者による器具点検も行っている。避難場所は4ヶ所あり、火災・水害・台風時等で区分している。地域の自治会長へ連絡して協力が得られている。備蓄は水・米・レトルト食品・乾パン・缶詰等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの個性や生活リズムを考えながら、プライバシーへの配慮、声掛けを実施している。</p>	<p>法人で毎月勉強会を実施している。個別の人格尊重における一連の動作から尊厳に配慮している。トイレへの誘導時、入室時の声掛けやノック等に配慮している。廊下に長椅子を置いてその人の生活リズムを大切にしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>話しやすい雰囲気づくりや人間関係の構築に留意し、本人の訴え、意思確認をしながら状況に応じて対応するよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員都合や日々のスケジュール通りではなく、個々の希望に応じた対応をするよう努めている。生活リズムに影響が出ないように気を付けたい。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>季節や好みに応じた衣服の選択をしていただいている。衣替えは家族に依頼し持参してもらっている。入浴後や希望時に整容を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍のため、入居者と職員と一緒に食事をとれない状況がある。 テーブル拭きや、お盆拭き等を手伝っていただき、役割による達成感を感じていただいている。	嗜好調査を事前に行い季節感のある物や行事食等で食事が美味しく食べられるようにしている。食事形態は事業所である場合もある。行事食では地域の郷土料理を提供している。食事の時間は音楽を流して食事を楽む時もある。利用者のテーブル拭き、お盆拭き等の手伝いがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在は法人母体施設から調理済みの食事の配送を行っており、事業所内で盛り付け、提供している。管理栄養士の指導の下、既往歴に配慮した食事・水分提供に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時および毎食後に、見守り又は介助にて口腔ケアを行い清潔保持に努めている。 必要に応じて歯科往診にて保清に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を未然に防げるよう、適宜声掛けをしたり、排泄パターンの把握に努めている。 夜間オムツ対応の方も、個々の状態に合わせて日中は綿パンツやリハビリパンツで過ごし、トイレ内での排泄を促進し、排泄の自立支援を行っている。	排泄チェック表から個人の排泄パターンを把握するようにしている。日中は時間ごとのトイレ誘導を促している。法人で排泄委員会を設置して毎月勉強会をしている。トイレへの声掛け支援をする事で、リハビリパンツ使用から綿パンツに改善された事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンの観察を行い、繊維質の摂取や運動への参加を促している。 便秘時には、原因究明や状態観察をしながら、かかりつけ医や看護職員に相談し、内服薬調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の設定はしているが、その日の体調や本人希望の応じて柔軟に対応できる体制を整えている。 入浴時はプライバシーに配慮しながら入浴を楽しんでいただけるよう支援を行っている。	週2回の入浴を計画し健康チェックを行い体調が良好であれば午後より支援している。体調に合わせて、いつでも入浴できるようにしている。拒否のある場合は入浴の効果等について話をしたり、1対1で対応する場合もある。入浴時はプライバシーや同性介助に心がけて羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを尊重し、希望に沿った形で休息・睡眠が取れるようにしている。 廊下には長椅子があり、集団から離れ入居者同士少人数で休息し談話できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診後の処方された薬情報用紙を毎回回覧形式で職員全員が確認し、個々の薬について理解している。 服薬中に状態変化がみられた場合は、法人看護職員やかかりつけ医へ報告・相談を行い、指示のもと服薬調整をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に応じて、洗濯物たたみやお盆拭き等出来ることを依頼し、役割を通じて達成感に繋がる支援を行っている。また制作物や集団レクリエーションなどで気分転換の支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍のため、外出が出来にくい状況があるが、定期受診後にドライブをしたり、天気の良い日に玄関先でおやつを食べながら茶話会等を行っている。	法人で年間計画を立て、計画に添った外出内容になっている。定期受診後に遠回りをしてドライブに出かけ個別に景色をみて季節を感じて貰っている。天気の良い日は、玄関先でおやつを食べたり、お茶を飲んだり近隣を散歩したりして外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持が本人の安心感に繋がる場合は、少額の現金所持については制限を設けていない。コロナ禍のため、支払いを伴う外出が出来にくい状況がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙は本人の希望により対応する体制を整えている。家族等から電話があり、本人が聞き取りにくい場合は職員が仲介する対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では調光や空調管理、音響調節やカーテンによるプライバシーへの配慮などを行い、居心地の良い環境づくりに努めている。 また文字やピクトグラムを使った場所の説明で混乱を避ける取り組みを行っている。 職員が交替で季節ごとの飾りつけを変え、季節を感じやすい取り組みをしている。	ホールは広く感染予防対策を行い安心して過ごしている。エアコンの設置や定期的に窓を開けて換気を行っている。カーテンを利用して遮光調整をしている。気持ちが落ち着くBGMを流している。季節ごとの作品やぬり絵・カレンダー等を掲示して、事業所内で季節が感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者トラブルの無いよう、入居者の座席配置に配慮している。 また食堂には畳の間や長机、廊下には長椅子や個人用椅子も設置し、一人で過ごされたり少人数で談話されており、本人の好む空間で過ごしていただける環境整備をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していたものなどを持参していただき、馴染みのあるもので安心できる環境づくりに努めている。 また居室内には制作物や家族写真の掲示をして、居心地よく過ごせるように工夫している。	ベッド・エアコン等の設置がある。利用者の持ち込みとして、家具・テレビ・ラジオ・家族の写真・本人が作成したカレンダーの塗り絵等があり、プライバシーに配慮した部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字やピクトグラムを使った場所の説明で分かりやすい取り組みを行っている。 廊下やトイレ・浴室に手すりを設置し、自身で移動や移乗ができ、安全で自立した生活が送れるよう環境整備を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない